

三校合同で奏でる ハーモニー

放課後、部活動で活気づく学校。校舎に近づいていくと、運動部の練習の掛け声、そして楽器を演奏する音が聞こえてきます。今月は町内の学校の「吹奏楽部」の様子をのぞいてみます。

Harmony

まちの吹奏楽部 飯南高等学校 赤来中学校 頼原中学校



飯南高校 吾郷治正先生



県大会で三校そろって金賞

真夏の吹奏楽コンクールも終わり3年生が引退した吹奏楽部。現在は、飯南高校15名、頼原中学校7名、赤来中学校13名の部員が、日々の練習、そして演奏会などに三校合同で参加したりしています。

毎年夏に開催される全日本吹奏楽コンクール。昨年は、飯南高校と頼原中学校が、今年も飯南高校が中国大会に出場。島根県大会では、2年連続で三校そろって金賞を受賞しました。

地域でも活躍の吹奏楽部

吹奏楽部の活動は、吹奏楽コンクールへの出場や定期演奏会、学校の文化祭での演奏をはじめ、保育所や小学校、福祉施設での演奏会、クリスマスコンサート、



頼原中学校 坂根伸哉先生

今の時期の練習は、日暮れも早い。短時間ですが、それぞれが自主的に課題を見つけて、時には、曲のイメージを仲間と考えたりしながら練習をしています。部員数は少ないながらも、中学・高校の垣根を越えて頑張っています。

吹奏楽に親しもう

ホールでの演奏会という敷居が高く感じるかもしれませんが、地域の学校の生徒達の演奏会であれば身近に感じられるのではないのでしょうか。吹奏楽のような生演奏には、個人で楽しむ音楽プレイヤーなどにはない良さがあります。会場の雰囲気を感じられ



赤来中学校 相本祐樹先生

地域の夏祭りや文化祭での演奏など。町内のイベントには欠かせない存在で、イベントに音楽の華を添えてくれています。

一人ひとりが主役

吹奏楽は、「全員でひとつの音楽をつくる」という意識が大切であると言われます。自分だけ楽をしたたり怠けたりすることは出来ないし、かといって自分だけ頑張れば良いという訳でもありません。自分が吹けなかったからといって、他の人が演奏してくれる訳でもありません。

故に、一人ひとりに「責任がある」と同時に、一人ひとりが「主役」である。誰もが主役になれる、それが吹奏楽の「魅力」です。

【吹奏楽の豆知識】

吹奏楽は、木管楽器、金管楽器、打楽器で構成される演奏形態のことです。木管楽器は、フルート、クラリネット、サクソフォンなど。金管楽器は、トランペット、トロンボーン、ホルン、ユーフォニアム、チューバなど。打楽器は、ドラム、ティンパニ、シロフォン、ピラフォン、シンバルなど、実に多くの楽器が使われます。また、コントラバスなどの弦楽器や、ピアノなどを加えて演奏することもあります。吹奏楽はバンドとよく混同されますが、バンドは金管楽器が主体の楽団のことで、吹奏楽とは異なります。

ますし、友達や家族と一緒に楽しむこともできます。町で活躍している三校の吹奏楽部の演奏を聴きに来てくださいませんか？そして、吹奏楽部の応援をよろしくお願いします！

音が育む心と感性

